

5. ベトナムにおける医療（婦人科・エコー・病理診断分野） 人材育成事業

学校法人 国際医療福祉大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

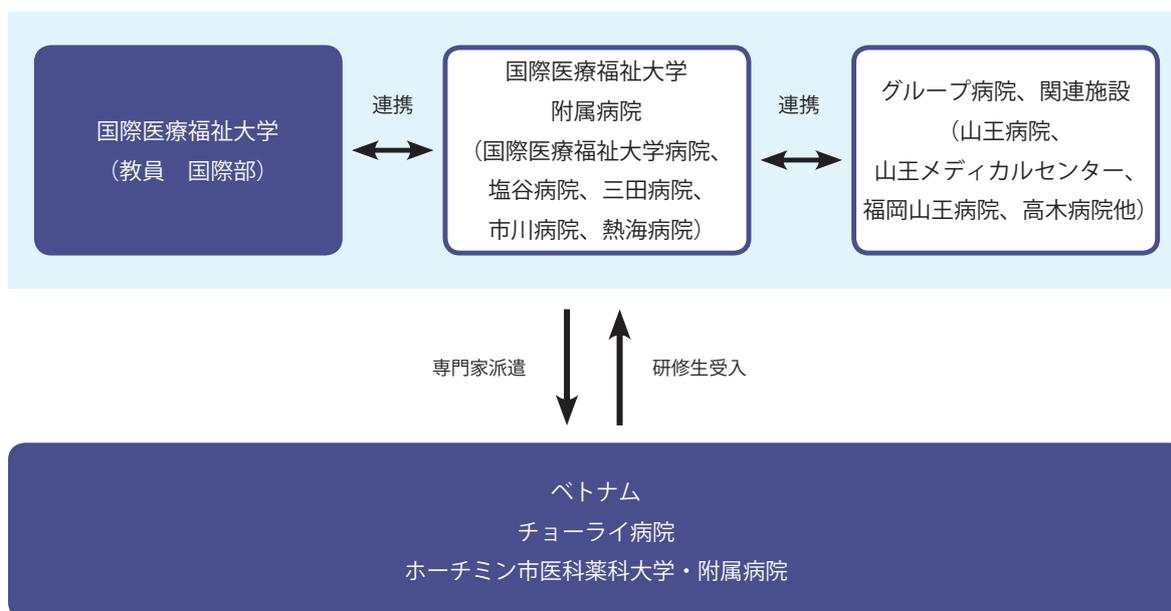
ベトナムでは経済発展に伴い生活習慣病患者が増加し、より高品質の医療への関心やニーズが高まりつつある。しかし現地における検査・診断技術レベルが充分でないことが課題となっている。本学医師等による対象機関での医療現況調査においても婦人科・エコー・病理診断分野で大きな課題が明らかとなり、当該分野の人材育成と技術レベル向上が必要であることを対象機関と合意した。

【事業の目的】

本事業は、本学と学術交流協定を締結し長年に渡って医療人材の育成に取り組んできたベトナム国立チョーライ病院及びホーチミン市医科薬科大学・附属病院を対象として、婦人科・エコー・病理診断の3分野での人材育成のための専門家の派遣及び研修員の受入を行い、我が国の最先端の医療サービスに関する技術・知見等の移転を図ることを目的とする。

【研修目標】

- ・ 婦人科・エコー・病理診断分野において必要となる診断知識・技術を備えた医師・技師を育成する。
- ・ 病理診断分野において日本の専門家との遠隔診断・コンサルトシステムを構築し、継続的に教育支援を実施する。



国際医療福祉大学の小川です。2018年度の「ベトナムにおける婦人科・エコー・病理診断分野の人材育成事業」についてご説明申し上げます。まず事業の背景ですが、ベトナムにおきましては、経済が発展して生活習慣病の患者が増加している一方で、検査や診断の技術レベルが不十分であることが挙げられます。そこで、本学は長く医療人材の育成事業に取り組んでおります国立チョーライ病院、ホーチミン市医科薬科大学付属病院と一緒に、特に事前の調査の中で課題が大きかった婦人科・エコー・病理診断の3分野の人材育成に取り組むことになりました。

事業の実施体制としましては、国際医療福祉大学と5つの付属病院、グループの山王病院等の施設から現地への専門家の派遣、そして現地の2施設からの研修生の受け入れを行いました。研修の目標としましては、婦人科・エコー・病理診断の3分野に必要な診断知識や技術を備えた医師・技師を育成すること、そして、ベトナムと日本の本学施設の間で遠隔診断・コンサルトシステムを構築して、継続的に教育の支援を実施することの2点を掲げました。

2018年度事業内容

2018年	7月	8月	9月	10月	12月	1月	2月	合計
日本人専門家の派遣 (人数、期間)	病理 2名4日間	エコー 1名11日間 病理 1名5日間	婦人科 1名5日間 1名6日間 病理 1名6日間	エコー 1名4日間 婦人科 1名4日間 1名8日間 1名9日間	エコー 1名7日間	エコー 1名6日間	エコー 1名5日間	婦人科 5名32日間 エコー 5名32日間 病理 4名19日間
海外研修生の受入 (人数、期間)		婦人科 2名6日間 病理 2名19日間	エコー 2名6日間		エコー 2名5日間	婦人科 3名3日間		婦人科 5名21日間 エコー 4名22日間 病理 2名38日間
研修内容	病理 診断研修	婦人科・ エコー・ 病理 診断研修	婦人科・ エコー 診断研修	婦人科・ エコー 診断研修	エコー 診断研修	婦人科・ エコー 診断研修	エコー 診断研修	

2018年度に実施した事業内容は、スライドの通りです。昨年の7月から本年2月にかけて、日本人の専門家派遣を行いました。婦人科より延べ5名を32日間、エコーで5名を32日間、病理で4名を19日間となりました。海外からの研修生の受け入れにつきましては、婦人科で延べ5名を21日間、エコーで4名を22日間、病理で2名を38日間で実施しました。

研修写真



(エコー分野研修)



(病理分野研修)



(婦人科分野研修)



(婦人科分野研修)

こちらは、この3分野において本学の三田病院と山王病院等で行った研修の様子です。各分野とも積極的な議論が展開されておりました。

2018年度成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	①ベトナムよりの研修受入れ ・婦人科:医師5名 ・エコー:医師3名 ・病理診断:医師1名、技師1名 ②本学専門家の派遣・研修実施 ・婦人科:医師4名 ・エコー:医師2名 ・病理診断:医師2名 ③病理遠隔診断システム知識の向上:50%	①以下診断技術レベルへの到達 ・婦人科:子宮頸部細胞採取、頸腫エコー検査の指導医判定との一致率90% ・エコー:頸動脈、乳腺、腹部診断の指導者判定との一致率90% ・病理診断:子宮頸部細胞診、胃・大腸生検細胞の病理診断指導医判定との一致率90% ②日本の医療施設との病理遠隔診断システムが2018年度内構築と運用開始	①ベトナム南部における婦人科・エコー・病理分野の診断技術の改善 ②ベトナム・日本間での病理遠隔診断システムの本格運用の実施と継続的指導の実施 ③正しい診断が可能になることによる各検査分野における有病率の正しい把握
実施後の結果(具体的な数値を記載)	①研修受入れ人数 ・婦人科:医師5名 ・エコー:医師3名 看護師1名 ・病理診断:医師1名 技師1名 ②専門家派遣人数 ・婦人科:医師5名 ・エコー:医師2名 ・病理診断:医師4名 ③知識向上:50%向上した。	①診断技術レベル ・婦人科:一致率90% ・エコー:一致率90% ・病理診断:一致率94% ②システム構築と運用開始:完了した。	①取り組み初年度であり緒についているところである。 ②本格運用と継続的指導がようやく開始されたところである。 ③引き続き情報収集が必要である。

2018年度の成果指標と結果について簡単にご報告いたします。まずアウトプットの指標として、3分野の研修生の受け入れ人数と、本学からの派遣人数を既定したのですが、ご覧のように目標以上の結果を出しております。

それから、遠隔病理診断のシステムに関する現地スタッフの知識向上を図りまして、Pre-Postの評価をしまして、PreとPostでは約50%、理解が促進されておりました。アウトカムの指標としましては、婦人科、エコー、病理の3分野で項目を定めまして、本学の指導員の判定にいか研修生の判定が近づくかを目指しました。各分野とも開始のところでは、指導員の判定との一致率が約60%だったのですが、日本での研修と現地での研修、その後の遠隔での指導により、研修の終了時には各分野とも9割を超える一致率になっております。

インパクト指標としましては、2018年度から3年間の事業の1年目ですので、まだ限られた成果です。3分野の診断技術の改善と遠隔診断の本格運用、それから継続的な指導が緒に就いたところでございます。研修のゴールの1つとして、ベトナムでの有病率について正しく把握するというのを挙げてはいるのですが、まだまだ情報収集が必要な状態です。

今年度の成果(事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい)

- ・ ホーチミン市医科薬科大学・国立チョーライ病院をパートナーとした婦人科・エコー・病理診断分野の三カ年人材育成計画の初年度主な成果は以下の通り。
 - ・ 婦人科・エコー・病理診断の各分野の基本的スキルを向上させることが出来た。
 - ・ ベトナムと本学日本施設間で病理遠隔診断コンサルシステムを構築し、運用を開始することが出来た。

今後の課題

- ・ 三カ年計画の二年目・三年目の取り組み課題は以下の通り。
 - ・ 婦人科・エコー・病理診断分野のスキル向上を継続して進めると共に、関連分野として放射線・内視鏡・総合診断分野のスキル向上にも取り組む。
 - ・ 新たに本学と交流協定を締結したホーチミン市の産婦人科専門病院・フンブン病院をパートナーに加える。
 - ・ ハノイ市の民間総合病院であるピンメック国際病院と共同で現地IUHW医療研修センター構想を検討し、上述分野のスキル向上に取り組むと共にそこで使用される日系医療機器の進出を支援する。

今年度の成果をまとめますと、3分野の診断技術の基本的なスキルの向上は出来たと思います。病理遠隔診断のコンサルシステムの構築は昨年10月に完了しまして、運用が開始されております。

今後の課題としましては、次の3点を挙げております。まず、対象分野の拡大です。実施した3分野に加えて、予防診断の関連分野である、放射線、内視鏡、総合診断の部分についても、今後は取り組んでいきたいと考えております。

また、現在はベトナムの2施設で取り組みをしておりますが、ホーチミン市の婦人科専門病院のフンブン病院と新しく交流協定を結びましたので、次年度以降はこちらも対象に加えたいと考えております。

それから、初年度の研修は南部ホーチミンでやっておりますが、北部のハノイにも活動を広げて、民間のピンメック国際病院と取り組みを始めるところです。ここに医療研修センターの設立を協議して、北部においてもスキルの向上や人材育成、日系の医療機器の進出の支援をしていきたいと思っております。

現在までの相手国へのインパクト

健康向上における事業インパクト

- ・ 事業で育成(研修を受けた)した保健医療従事者の延べ数
本邦での研修 11名、現地研修参加者 88名
- ・ 期待される事業の裨益人口(のべ数)
1年間に婦人科・エコー・病理診断を受ける患者数4,000人

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- ・ 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数(具体的事例も記載)
該当なし
但し、本研修に関連して、現地医療研修センターには日本製エコー機器4台、婦人科内診台1台、病理診断システム1台他が導入されており、今後認知拡大・調達拡大に繋がることが期待される。
- ・ 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数(具体的事例も記載)
該当なし

現在までの相手国へのインパクトとしましては、健康向上における事業インパクトとして、本邦での研修を受けた者が11名、現地での研修を受けた者が88名います。それから本事業の年間の延べ裨益人数として、婦人科、エコー、病理診断を受ける患者様4,000人を見込んでおります。医療技術・機器の国際展開における直接的な事業インパクトはまだ出ていないのですが、研修センターで日本製の機器を多々使っておりますので、これから認知の向上や理解促進が図られていくのではないかと考えております。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるように事業の展望を具体的に描いてください(自由形式)。

- ・ 研修の現在の婦人科・エコー・病理診断の三領域から対象を内視鏡・放射線・総合診断まで拡大して広範な予防医学診断のレベル向上に取り組む。延いてはベトナムの予防医学水準の向上に貢献する。
- ・ 現在の南部ホーチミン市を中心とした研修展開に加えて、今後、北部ハノイ市に医療研修センターを設立して、北部地区においても上述分野のレベル向上に取り組むと共に、センターに日本製医療機器を導入して、ベトナムに於ける日本製医療機器の認知度向上、普及を推進する。延いては日本製の高度医療機器の使用によりベトナムの病気早期発見・早期治療に貢献する。

最後に展開推進事業の目的に照らした将来の事業計画ですが、現在の3分野からさらに対象を広げて、広範な予防医学の診断レベルの向上、人材育成に取り組みたいと考えております。最終的にはベトナムの予防医学水準の向上に貢献していきたいと考えております。

それから、対象となるエリアを、南部を中心としながら北部にも広げていきたいと考えております。また、次年度以降は日本製の医療機器の導入促進、認知度の向上にも取り組んでいきたいと考えております。私からは以上になります。ご清聴ありがとうございました。